

越前・若狭諸藩「給帳・分限帳・由緒書」収載書一覧

福井県立図書館

2024.6 改訂

○福井藩

[『松平家蔵 慶永公御代給帳』福井図書館、1937.](#)

※巻頭に人名索引あり。

『福井藩結城中納言秀康卿分限帳／御家中名元イロハ引』福井市立図書館、1943.

※前者は秀康代の分限帳で 532 名を収録。

※後者はおおよそ慶永時代の家臣をイロハ順に並べたもの。

『福井県史 資料編 3 中・近世一』福井県、1982.

p119-185「給帳」

※安政元年（1854）時点（慶永時代）の分限帳。家老から下代・坊主までは禄高・役職・姓名を記す。与力・組之者（足輕）以下は給禄と人数のみ。

『福井市史 資料編 4 近世二 藩と藩政（上）』福井市、1988.

p184-202「結城秀康給帳」

※福井藩初期、知行取 523 家の名簿。

p202-216「松平忠昌給帳」

※知行取 548 家のみを収録。

p216-235「松平光通給帳」

※知行取 535 家に加え、扶持・切米取 121 家、計 654 家を収録。

p235-257「松平綱昌給帳」

※知行取 554 家に加え、扶持・切米取 157 家、計 711 家を収録。

p257-277「半知ニ付家中減員覚帳」

※貞享 3 年（1686）に藩の高が半減された際、召し放たれた藩士の名簿。知行取 202 家、扶持・切米取 92 家、その他は人数のみを記す。

p277-293「松平吉品給帳」

※士分 477 家の姓名・家禄、卒は人数のみを収録。

p293-320「松平宗矩給帳」

※享保 9~10 年（1724-25）頃成立。士分 674 家と卒 297 人の姓名・給禄・役職を記載。

p320-384「松平斉承給帳」

※士分 778 家のほか、卒の一部の姓名・給禄・役職を記載。

p387-600「諸士先祖之記（抄）」

※享保 6 年（1721）以降に成立した家ごとの由緒書。5 冊中 2 冊のみを収載。召出された時期ごとに家を配列。採録の対象は士分のみ。

『片聾記・続片聾記』福井県立図書館、1955.

p311-330「中納言秀康卿分限帳之写」

※秀康の代（1600-1607）における給帳。

p330-338「宰相忠直御給帳」

※忠直の代（1607-1623）における給帳。

p338-348「黄門様御代御給帳」

※黄門様は秀康、ただし内容は忠直の代か？

p349-354「伊予守忠昌公御代給帳」

※忠昌の代（1624-1645）における給帳。

p354-359「越前守光通公御代給帳」

※光通の代（1645-1674）における給帳。

p360-370「大安院様御切米給帳」

※大安院＝光通の代における切米取だけの給帳。

p375-392「越前守綱昌公御代延宝七未年年給帳」

※綱昌の代（1676-1686）のうち延宝7年（1679）時点の給帳。

p392-426「越前守少将源綱昌公」

※綱昌の代、貞享3年（1686）春時点の給帳。

p426-430「越前守綱昌公御代給帳之写」

※綱昌の代（1676-1686）における給帳。

p431-448「兵部大輔吉品公御給帳」

※吉品の代（1686-1710）における給帳。

p448-458「吉邦公御代御給帳」

※吉邦の代（1710-1721）、享保4年（1719）頃の給帳。

p458-489「兵部大輔宗矩公御代御給帳」

※宗矩の代（1724-1749）、寛延年中（1748-1750）の給帳。

『大野市史 史料総括編』大野市、1985.

p171-180「松平秀康公御代御給帳」

※秀康の代（1600-1607）における給帳。

[『福井藩士履歴 1 あ～え』福井県文書館、2013. 2](#)

[『福井藩士履歴 2 お～く』福井県文書館、2014. 2](#)

[『福井藩士履歴 3 け～そ』福井県文書館、2015. 2](#)

[『福井藩士履歴 4 た～ね』福井県文書館、2016. 2](#)

[『福井藩士履歴 5 の～ま』福井県文書館、2017. 2](#)

[『福井藩士履歴 6 み～わ』福井県文書館、2018. 2](#)

全頁。藩士約3,000家のうち、上級・中級藩士約900家の履歴（「剥札」「士族」）を五十音順に配列したもの。

[『福井藩士履歴 7 子弟輩』 福井県文書館、2019. 2](#)

いろは順。全頁。幕末期に新たに召しだされた藩士の子弟（303 名）の人事履歴。

[『福井藩士履歴 8 新番格以下 1 イ〜リ』 福井県文書館、2020. 3](#)

いろは順。下級藩士約 500 家の人事履歴のうち、「イ〜リ」分。

[『福井藩士履歴 9 新番格以下 2 ヲ〜ヨ』 福井県文書館、2021. 3](#)

いろは順。下級藩士約 500 家の人事履歴のうち、「ヲ〜ヨ」分。

[『福井藩士履歴 10 新番格以下 3 タ〜ム』 福井県文書館、2022. 3](#)

いろは順。下級藩士約 500 家の人事履歴のうち、「タ〜ム」分。

[『福井藩士履歴 11 新番格以下 4 ウ〜マ』 福井県文書館、2023. 3](#)

いろは順。下級藩士約 500 家の人事履歴のうち、「ウ〜マ」分。

[『福井藩士履歴 12 新番格以下 5 フ〜サ』 福井県文書館、2024. 3](#)

いろは順。下級藩士約 500 家の人事履歴のうち、「フ〜サ」分。

そのほか、こちら（[福井藩士について調べる（県文書館作成）](#)）から検索することができます。

○松岡藩

『続片叢記 下』 福井県郷土誌懇談会、1957.

p517-638「松岡分限帳」

※索引あり

『松岡町史 上巻』 松岡町、1978.

p208-223「松岡様御給帳」

※松岡藩（1645-1721）の延宝4年（1676）以降の給帳。

○吉江藩

『片聾記・続片聾記』福井県立図書館、1955.

p371-374「延宝三卯年吉江給帳」

※吉江藩（1645-1674）の延宝3年（1675）の給帳。

『鯖江市史 通史編 上巻』鯖江市役所、1993.

p380-381「(明暦元年吉江藩出向者一覧)」

※明暦元年（1655）福井藩から吉江藩への出向した46人。

p383-384「延宝二年之比 越前吉江給帳（部分）」

※吉江藩（1645-1674）の延宝2年（1674）頃の給帳。

○丸岡藩

『丸岡城略史』五徳会、1974.

p43-68「丸岡藩鑑（円陵藩鑑）」

※嘉永元年（1848）四月改正の分限帳。

○鯖江藩

『鯖江市史 史料編第五卷 藩政史料編 II 鯖江藩御家人帳（上）』鯖江市役所、1977.

『鯖江市史 史料編第五卷 藩政史料編 II 鯖江藩御家人帳（下）』鯖江市役所、1978.

全頁「寛政改御家人帳（12 冊）」・「天保改御家人帳（1 冊）」・「安政改御家人帳（1 冊）」

※索引あり。宝永元年（1704）12 月、間部詮房が初めて家臣を召し抱えてから、明治 3 年（1870）に至るまで、間部家に仕えた士分 480 家の系譜。

『鯖江市史 史料編第六卷 藩政史料編 III 小頭以下代数書』鯖江市役所、1979.

全頁「寛政改小頭以下代数書（4 冊）」・「天保改小頭以下代数書（1 冊）」・「江戸小頭以下代数書（3 冊）」

※索引あり。下級武士（卒分）の系譜。

○勝山藩

『勝山市史 資料編 第一巻』勝山市、1977.

p402-411 「士族卒禄高取調帳」

※禄高順。明治四年（1871）時点。士族 164 人、卒 88 人の計 252 人を収録。

『勝山市史 資料編 第四巻』勝山市、2010.

p448-456 「小笠原家給帳」

『勝山藩古事記』勝山藩古事記協賛会、1931.

p42-62 「勝山藩士俸米帳」

※イロハ順。明治四年（1871）九月時点の分限帳。

p319-495 「諸名家人伝 勝山藩諸名家人伝」

※イロハ順。昭和初期、勝山藩の旧士族のうち、編者の問い合わせに回答した 151 家について、先祖からの略歴や当主等の履歴を記す。

○大野藩

『大野市史 史料総括編』大野市、1985.

p232-「雲州松平家列士録（抜粋）」

※直政の大野治世時代（1624-1633）における藩士の由緒書。

『大野市史 第四巻 藩政史料編一』大野市役所、1983.

p807-960「土井家家臣由緒書（抜粋）」

※延享四年（1744）作成、以後加筆。

p961-1056「土井家職制帳（前録）」

※役職ごとに歴代の藩士名を記す。

p1057-1097「土井家分限帳（抜粋）」

※明治二年（1869）時点の分限帳。履歴・改名情報も載せる。

p1098-1105「大野御家中切米分限帳」

※天和三年（1683）時点の分限帳。

○小浜藩

『小浜市史 藩政史料編二』小浜市役所、1985.

p1-348「安永三年小浜藩家臣由緒書」

※イロハ順。巻末に人名索引あり。安永 3 年（1774）作成の由緒書。藩士各家の歴代当主の履歴を載せる。

p349-357「寛永一四年分限帳」

※寛永 14 年（1637）時点の分限帳。初代藩主酒井忠勝が若狭に入国した時点のもので、最も古いもの。知行高の多い順に記載。

p 357-364「寛永一七年小浜分限帳」

※寛永 17 年（1640）時点の分限帳。国許（小浜）分のみ。軍事編成を念頭においた配列。

p 364-372「寛永一八年分限帳」

※寛永 18 年（1641）時点の分限帳。知行の多い順に記載し、役職もあわせて載せる。

p 373-389「万治元年分限帳」

※万治元年（1658）時点の分限帳。最も情報量が多い。

p 390-401「寛文七年分限帳」

※寛文 7 年（1667）時点の分限帳。

p 401-422「寛文一二年小浜分限帳」

※寛文 12 年（1672）時点の分限帳。国許（小浜）分の知行取のみを載せ、武具の意匠や役職も注記。

p 422-437「寛文一三年江戸分限帳」

※寛文 13 年（1673）時点の分限帳。江戸分のみ。知行取と扶持米・切米取の職掌も載せる。

p 437-457「貞享二年江戸分限帳」

※貞享 2 年（1685）時点の分限帳。江戸分のみ。知行取と扶持米・切米取の職掌も載せる。

p 457-467「元禄二年小浜分限帳」

※元禄 2 年（1689）時点の分限帳。小浜分のみ。

p 468-478「元禄三年江戸分限帳」

※元禄 3 年（1690）時点の分限帳。江戸分のみ。

p 478-489「正徳二年江戸分限帳」

※正徳 2 年（1712）時点の分限帳。江戸分のみ。

p 489-502「享保一四年小浜分限帳」

※享保 14 年（1729）時点の分限帳。小浜分のみ。

p 502-511「寛延元年江戸分限帳」

※寛延元年（1748）時点の分限帳。江戸分のみ。

p 511-524「明和三年小浜分限帳」

※明和 3 年（1766）時点の分限帳。小浜分のみ。

p 524-530「天明四年江戸分限帳」

※天明 4 年（1784）時点の分限帳。江戸分のみ。

p 530-544「寛政六年分限帳」

※寛政 6 年（1794）時点の分限帳。役職ごとに知行高・扶持高を記し、召し抱え時期も記載。

p 544-548「文化八年京都分限帳」

※文化 8 年（1811）時点の分限帳。京都分のみ。藩主忠進の京都所司代時代のもの。

p 549-551「弘化二年京都分限帳」

※弘化 2 年（1845）時点の分限帳。京都分のみ。藩主忠義の京都所司代時代のもの。

p 551-562「嘉永五年小浜分限帳」

※嘉永 5 年（1852）時点の分限帳。小浜分のみ。役職ごとに知行高・扶持高を記載。